

中 並 木 遺 跡

—城南工業団地再拡張に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書—

1 9 9 4

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

目 次

例 言

凡 例

本 文

I 調査に至る経緯	2
II 遺跡の位置と環境	3
III 発掘調査の方法と経過	3
IV 基本層序	4
V 遺構と遺物	4
VI まとめ	5

野 表

遺物観察表	6
-------------	---

挿 図

Fig. 1 位置図	1
Fig. 2 発掘調査区域図・周辺の遺跡	2
Fig. 3 調査区A・B平面図 H-1号住居址平面図	8
Fig. 4 H-2号・H-3号住居址平面図	9
Fig. 5 出土遺物(H-1①~H-1⑤)	10
Fig. 6 出土遺物(H-1⑥~H-1⑪ H-2⑨⑩)	11
Fig. 7 出土遺物(H-2①~H-2⑤)	12
Fig. 8 出土遺物(H-2⑥~H-2⑧ H-3①~H-3④)	13
Fig. 9 出土遺物(H-3⑤~H-3⑮)	14

図 版

P L. 1 H-1~3号住居址 H-3号住居址遺物出土状況	15
P L. 2 遺物H-2④⑤⑥出土状況 H-1号住居址出土遺物(集合)	16
P L. 3 H-2号・H-3号住居址出土遺物(集合)	17
P L. 4 H-1号住居址出土遺物	18
P L. 5 H-2号住居址出土遺物	19
P L. 6 H-3号住居址出土遺物	20

例 言

1. 本書は前橋工業団地造成組合（管理者 小寺弘之）の城南工業団地再拡張に伴う中並木遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の略称は、5E30とする。
3. 調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
4. 発掘調査の要項は、次のとおりである。

調査場所	前橋市飯土井町112番
発掘調査期間	平成5年10月 1日～平成5年10月19日
整理期間	平成5年10月20日～平成6年 1月28日
調査担当者	園部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団） 井野誠一（ 同 上 ）
5. 本書の編集、執筆は調査担当者の協議により分担して行った。
6. 遺物整理、図面作成、図面整理、遺物写真等は、担当者及び整理事業員が分担して行った。
7. 発掘調査にかかわった方々は次のとおりである。（順不同）

小淵恵子	市川昌子
------	------

凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。

H…土師器使用竪穴式住居址

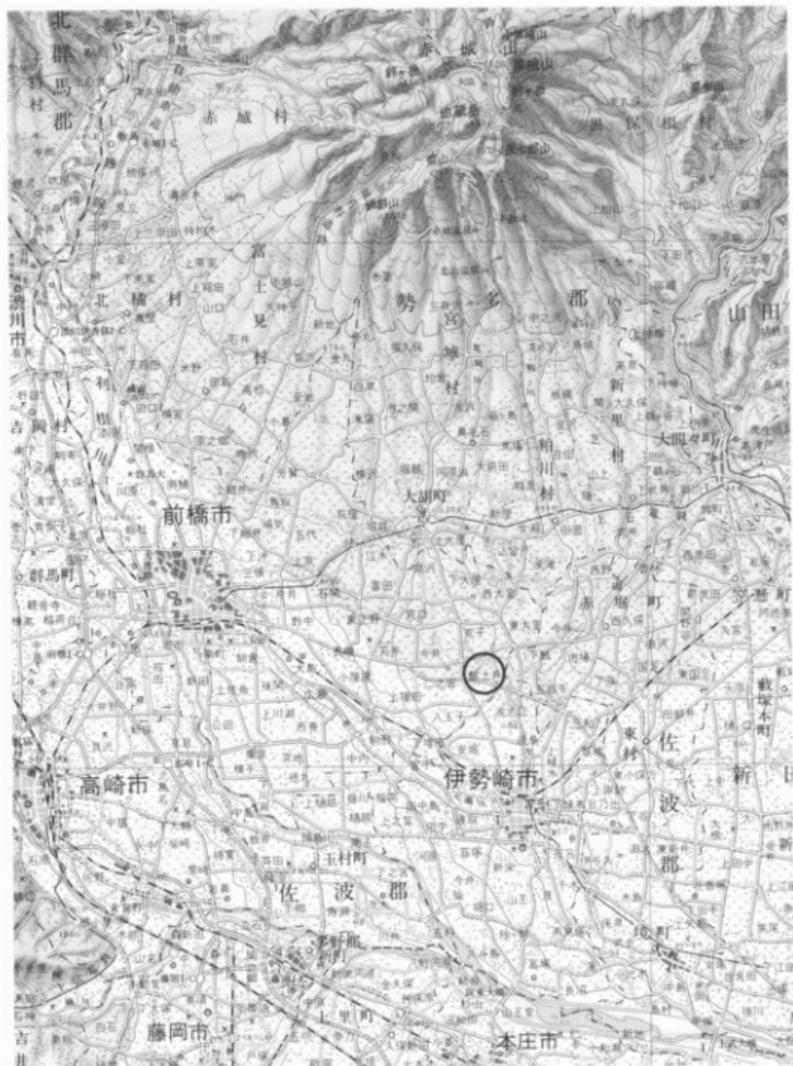
2. 挿図図版の縮尺はそれぞれの図に記した。主なものは次の通りである。

住居址…1/60	炉址…1/30	遺溝全体図…1/200	遺物…1/3
----------	---------	-------------	--------
3. 遺構挿図中に記した断面基準線は標高で表した。
4. 遺構挿図中に示したN方位は座標北である。
5. 遺構挿図中のスクリーントーンの使用は次の通りである。

地山 	焼土範囲 	粘土 
--	--	--
6. 住居址遺物分布図における記号は次の通りである。

●…甕	■…高坏	▲…坏・坩・埴	△…甌
-----	------	---------	-----
7. 土色は「新版標準土色帖」に基づいている。
8. 遺物観察表の大きさの項目中、口は口縁部の直径、高は器高、胴は胴部の最大径、脚は脚部の直径、底は底部の直径を表している。

中並木遺跡の位置（丸印）



1 : 200,000



Fig.1 位置図

I 調査に至る経緯

本調査の原因となった城南工業団地（前橋工業団地造成組合が造成）の造成は当初の計画部分が昭和60年に完成し、その後平成3年に南部分を拡張し、現在全域が分譲され稼働している。今回、更にもその西側が再拡張されることになったが、表面調査や周辺の発掘調査データから遺跡の可能性が高いことが分かったので、平成5年6月～8月に造成予定地177,000㎡全域にわたって試掘調査を実施し、その結果遺構が確認された123㎡について同年10月に発掘調査を実施した。

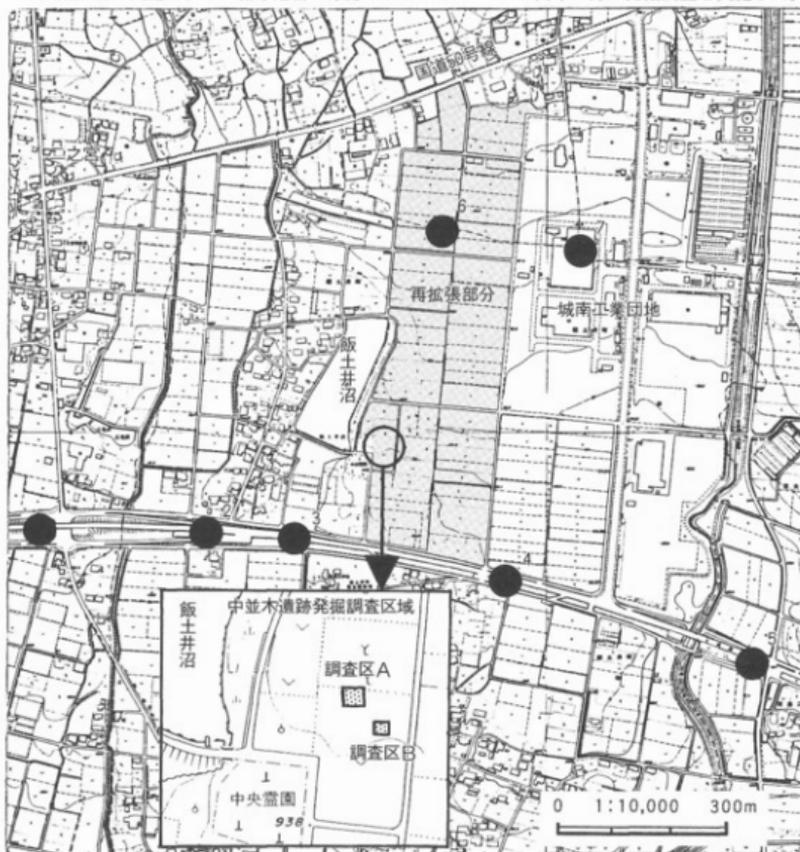


Fig.2 発掘調査区域図・周辺の遺跡

II 遺跡の位置と環境

中並木遺跡が所在する前橋市飯土井町は、前橋市の中心市街地から東へ約10kmの所にある。遺跡は国道50号線二之宮十字路から東に600m、南に600mに位置し、飯土井沼の東側にあたる。周辺一帯は昭和50年代に群馬県によって圃場整備が、また前橋工業団地造成組合により工業団地の造成が行われ、現在は標高約94.3mで平坦に整備された田畑と近代的な工場等が見られる。

南側には上武国道が通過しているが、この工事に先立つ埋蔵文化財発掘調査により遺跡が次々に調査された。Fig. 2の1～5の遺跡がこれに当たり、旧石器時代から平安時代に至るまでの遺構・遺物が検出されている。調査地北側には、圃場整備に伴い昭和55年に群馬県埋蔵文化財調査事業団によって発掘調査が行われた中世の農業用水址「女堀」がある。(同図6)同図7は最初の工業団地造成に先立ち、昭和56・57年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が発掘調査を実施した所で、「女堀」をはじめ縄文時代から平安時代までの遺構・遺物が検出された。

調査地一帯の旧地形は、過去の発掘調査や試掘調査の結果から再拡張部分の北西部から南東部にかけて低地が走りその西側は低い台地状になっていたと思われる。圃場整備では高い部分の土で低地を埋める形で整地したため、当時の遺構は相当削り取られたものと思われる。遺物散布状況に比較して残存していた遺構が少なかったのはそのためであろう。

III 発掘調査の方法と経過

1. 方 法

事前の試掘調査の結果2カ所で遺構が確認されたため、調査区を二つにわけてそれぞれ調査区A、調査区Bと呼称した。位置は北西隅がAは国家座標IX系 $x = +40486m$ 、 $y = -58296m$ 、Bは同 $x = +40470m$ 、 $y = -58283m$ である。表土掘削はバックホーを用い、軟質(ソフト)ローム上面で遺構を確認し、土層観察のため遺構中央にセクションベルトを設け調査を進めた。遺構の平面図と地層断面図は縮尺1/20、炉址の断面図については縮尺1/10で作成した。遺物は上層の小破片を除き出土位置等を遺物台帳に記録し収納した。

2. 経 過

発掘調査委託契約締結	平成5年10月1日
発掘調査事務手続き	平成5年10月1日～8日
発掘調査準備	平成5年10月11日～12日
発掘調査(現地調査)	平成5年10月13日～19日(5日間)
整理作業・報告書作成	平成5年10月20日～平成6年1月26日
整理事務	平成6年1月27日～28日

IV 基本層序

表面20cm程度が耕作土で、粘性のない暗褐色粗砂層。次にソフトローム土を主体とする暗褐色細砂層が20cm堆積し、黄褐色のソフトローム層と続く。ソフトローム層の厚さは場所により異なるが20cm程度が平均値である。さらに下層はハードローム層となるが、調査した住居地の床面がハードソフトローム層まで達するものはなかった。

V 遺構と遺物

調査区Aに住居地2軒、調査区Bに住居地1軒を検出した。次に、個々の遺構について述べる。

H-1号住居地

挿図 Fig. 3, 5, 6 写真 PL. 1, 2, 4

床面積 9.10㎡ 方位 N-55°-E

形状 長軸3.16m、短軸2.96mの長方形を呈する。壁高は21cmを測る。

床面 掘り方をもたず、掘り込んだローム面を直接床としている。全体的に平坦であるが柔らかく顕著な堅緻部並びに周溝は検出されなかった。

炉址 西の柱穴を結んだ線よりわずかに内側に地床炉1基検出。47cm×35cmのほぼ楕円形を呈し、焼土が盛り上がる形で残っていた。

柱穴 4個検出された。規模はP1・31cm×30cm×(深さ)22cm、P2・40cm×25cm×(深さ)20cm、P3・36cm×33cm×(深さ)23cm、P4・28cm×25cm×(深さ)20cmであった。

貯蔵穴 検出されず。

遺物 炉址を中心に西側床面に集中して出土。復原できた遺物は11点で甕3点、甌1点、高坏5点、埴2点であった。いずれも和泉式土器である。

備考 調査区A内にH-2号住居地の北側に並んで検出。

H-2号住居地

挿図 Fig. 4, 6, 7, 8 写真 PL. 1, 2, 3, 5

床面積 11.55㎡ 方位 N-40°-E

形状 長軸3.48m、短軸3.46mのほぼ正方形で壁高は36cmを測る。

床面 掘り方をもたず、掘り込んだローム面を直接床としている。全体的に平坦であるが柔らかく顕著な堅緻部並びに周溝は検出されなかった。

炉址 西の柱穴を結んだ線より内側でやや北側に地床炉1基検出。直径35cmの円形を呈し、炉縁石を一個配している。

柱 穴 4個検出された。規模はP1・18cm×13cm×(深さ)9cm、P2・31cm×21cm×(深さ)16cm、P3・14cm×13cm×(深さ)14cm、P4・23cm×16cm×(深さ)14cmであった。

貯蔵穴 北東隅に1基検出。60cm×51cmの楕円形で深さ23cmを測る。貯蔵穴内から高坏が3点出土。

遺 物 復原できた遺物は10点で甕4点、高坏4点、埴2点であった。貯蔵穴内から出土した高坏④⑤⑥の3点は出土状態から廃絶前には重なっていたものと思われる。いずれも和泉式土器である。

備 考 調査区A内にH-1号住居の南側に並んで検出。

H-3号住居址

挿 図 Fig.4, 8, 9 写 真 P L. 1, 3, 6

床面積 9.43㎡ 方 位 N-34°-E

形 状 長軸3.44m、短軸2.84mの長方形を呈する。壁高は7cmを測る。

床 面 掘り方をもたず、掘り込んだローム面を直接床としている。全体的に平坦であるが柔らかく顕著な堅緻部並びに周溝は検出されなかった。炉址北側に構築材の燃焼が原因とみられる焼土と若干の炭化物が検出された。

炉 址 西の柱穴を結んだ線よりわずかに内側、中央やや西側に地床炉1基検出。42cm×35cmのほぼ楕円形をであった。

柱 穴 4個検出された。規模はP1・18cm×15cm×(深さ)12cm、P2・21cm×21cm×(深さ)16cm、P3・27cm×20cm×(深さ)16cm、P4・25cm×23cm×(深さ)17cmであった。

貯蔵穴 東側の柱穴を結んだ線上、やや北寄りに一基検出。規模は67cm×56cmで深さ18cmであった。

遺 物 残存壁高7cmと非常に浅いにもかかわらず、小型のものが北西床面一面に並んで出土し、15点復原できた。内訳は甕2点、高坏4点、埴5点、坏1点、埴3点であった。高坏の坏部⑩⑪は重なって出土。いずれも和泉式の土器である。

VI まとめ

今回の調査で検出した遺構は和泉式土器を伴う住居址3軒であった。いずれもソフトローム中で検出され、床面も柔らかく締め固められた状態ではなかったが3軒とも柱穴4個と炉址1基を伴っていた。住居址は過去の圃場整備での整地によって上部を相当削り取られたため、調査は下部に限られたが、和泉式の土器が床面直上から多数出土した。調査に先立ち実施した土器片の散布状況調査では、全体の30%程度にわたって散布を確認したが、試掘では本調査地以外では遺構が確認されなかった。また、地層の状況は、低地を埋めた部分と本調査地を除き、耕作土の下にソフトロームがほとんど認められないことも圃場整備によって土が動いたためと考えるのが妥当であり、圃場整備前には他にも遺構が存在していたものと思われる。

遺物観察表

番号	器形	大きさ(mm)	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴
H-1①	甕	口 161 高 225	①細粒②良好③赤褐④ほぼ完形	外面は口縁部横ナデ、肩部横ナデ、胴部寛削り、底部に凹み。 内面は口縁部横ナデ、肩部刷毛目、胴部横ナデ。
H-1②	瓶	口 174 高 265	①中粒(白色鉱物)②良好③赤褐④2/3	外面は口縁部横ナデ、肩部ナデ、胴部寛削り。 内面は口縁部横ナデ、胴部横ナデ。
H-1③	甕	口 160	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/3	外面は口縁部横ナデ、胴部刷毛目後寛削り。 内面口縁部刷毛目後横ナデ、胴部ナデ、輪積み痕。
H-1④	高坏	口 172 高 153	①細粒②良好③赤褐④ほぼ完形	外面は口縁部横ナデ、坏部横ナデ、脚部ナデ。 内面は坏部ナデ、脚柱部寛削り、裾部横ナデ。
H-1⑤	高坏	口 180 高 132	①細粒②極良③橙④ほぼ完形	外面は坏部口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目後ナデ、胴部下半ナデ、脚柱部ナデ、脚部横ナデ。 内面は坏部刷毛目後ナデ。脚柱部放射状の溝切り痕、裾部横ナデ。脚柱上端部紋り。
H-1⑥	高坏	口 181	①中粒②良好③赤橙④4/5	外面は坏部・口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目、胴部下半ナデ、脚部ナデ。内面は坏部刷毛目、脚柱部放射状の溝切り痕、裾部刷毛目後ナデ。脚柱上端部紋り。
H-1⑦	埴	口 144 高 158	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面は口縁部横ナデ、ナデ後暗紋状沈磨き、胴部上半ナデ、下半寛削り後暗紋状沈磨き。 内面は口縁部横ナデ、寛ナデ後暗紋状沈磨き、胴部ナデ。
H-1⑧	小形甕	口 117 高 120	①中粒②良好③赤褐④完形	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。 内面は口縁部横ナデ、胴部横ナデ。
H-1⑨	埴	口 103 高 80	①細粒②良好③黄橙④完形	外面は口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目後ナデ、その後沈磨き、下半寛削り後沈磨き。 内面は口縁部横ナデ、胴部ナデ後沈磨き。
H-1⑩	高坏	底 130	①細粒②良好③赤褐④脚部1/5	外面、内面とも寛削り、裾部ナデ
H-1⑪	高坏	口 187	①細粒②良好③赤橙④杯部4/5	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ後沈磨き。 内面は口縁部横ナデ、胴部刷毛目後ナデ、その後沈磨き。
H-2①	甕	口 157 高 230	①細粒②良好③橙④完形	外面はナデ、一部寛削り。内面はナデ。
H-2②	甕	口 132 高 203	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面は寛削り、胴部輪積み痕。内面一部寛削り。
H-2③	甕	胴 235 底 70	①細粒②良好③にぶい橙④胴部3/5	外面は寛削り、一部磨き。
H-2④	高坏	口 166 高 150	①細粒②良好③明黄褐④ほぼ完形	外面は脚部ナデ、坏部刷毛目後ナデ、寛削り。 内面はナデ。
H-2⑤	高坏	口 159 高 143	①細粒②良好③赤褐④ほぼ完形	外面・内面ナデ。
H-2⑥	高坏	口 177 高 134	①細粒②良好③橙④完形	外面は坏部ナデ後磨き、脚部磨き、一部暗紋状の沈線。坏内面刷毛目後磨き。
H-2⑦	埴	口 106 高 91	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外面は口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半寛削り。 内面は口縁部横ナデ、胴部磨き状ナデ。
H-2⑧	埴	口 131 高 80	①中粒②良好③赤橙④2/3	外面は口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半寛削り。 内面は口縁部横ナデ、胴部上半指ナデ、下半寛ナデ、底部にナデの工具による放射状の沈線。
H-2⑨	高坏	脚 148	①細粒②良好③橙④脚部2/3	外面脚部ナデ沈磨き。脚部内面溝切り痕。 H-2⑥とH-2⑨は同じ台で作ったのか?
H-2⑩	甕	底 88	①中粒②良好③赤褐④1/4	外面は寛削り。内面は寛ナデ。

H-3①	堊	口 140 高 185	①細粒②良好③にふい赤褐④ほぼ完形	外面は胴部艶削り、一部艶磨き。内面は艶削り。
H-3②	堊	口 159 高 216	①細粒②良好③にふい橙④2/3	外面は刷毛後ナデ、一部刷毛後暗紋状磨き。 内面はナデ。
H-3③	高坏	口 168 高 144	①細粒②良好③にふい橙④ほぼ完形	外面は胴部ナデ、坏部内部、外部とも刷毛後ナデ。 脚部内面は溝切り痕、台部刷毛後ナデ。
H-3④	埴	口 100 高 113	①細粒②良好③暗赤褐④ほぼ完形	外面は胴部艶削り、口縁部艶磨き。 内面は口縁部艶削り。
H-3⑤	埴	口 107 高 84	①細粒②良好③褐色④ほぼ完形	外面は刷毛後ナデ。
H-3⑥	埴	胴 128 底 45	①細粒②良好③橙④2/3	外面は刷毛後ナデ。一部磨き。
H-3⑦	埴	口 106 高 55	①細粒②良好③にふい橙④ほぼ完形	外面は口縁部横ナデ、胴部指ナデ、下部艶削り。 内面は口縁部横ナデ、胴部艶ナデ。
H-3⑧	坏	口 110 高 55	①細粒②良好③赤橙④ほぼ完形	外面は口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、胴部下半艶削り。 内面は口縁部横ナデ、胴部刷毛目状ナデ。
H-3⑨	埴	口 91 高 60	①中粒②良好③にふい赤褐④完形	外面は口縁部横ナデ、胴部指ナデ。 内面は口縁部横ナデ、胴部艶ナデ。
H-3⑩	埴	口 73 高 74	①細粒②良好③明黄褐④完形	外面は刷毛後ナデ。内面は一部刷毛後ナデ。
H-3⑪	埴	口 120 高 60	①細粒②良好③暗赤褐④1/2	外面は口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、胴部下半艶削り。 内面は口縁部横ナデ、胴部艶ナデ。
H-3⑫	埴	胴 90	①中粒②良好③黄橙④胴部2/3	外面は胴部上半刷毛目後ナデ、胴部下半艶削り。 内面は指ナデ。
H-3⑬	高坏	口 177	①中粒②良好③にふい赤橙④1/2	外面は口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目、胴部下半艶削り、脚柱部艶削り。 内面は刷毛目後横ナデ、下半艶削り後ナデ。
H-3⑭	高坏	口 174	①細粒②良好③にふい橙④坏部完形	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ後艶磨き、胴部下半刷毛目。内面はナデ後艶磨き。
H-3⑮	高坏	口 177	①細粒②良好③橙④坏部	外面、内面ともナデ。

参考文献

赤山容造ほか 1991 「萱野遺跡 下田中遺跡 矢場遺跡」 群馬県企業局

能登 健ほか 1984 「女堀」 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

『昭和56年度文化財調査報告書第12集』 前橋市教育委員会

『昭和57年度文化財調査報告書第13集』 前橋市教育委員会

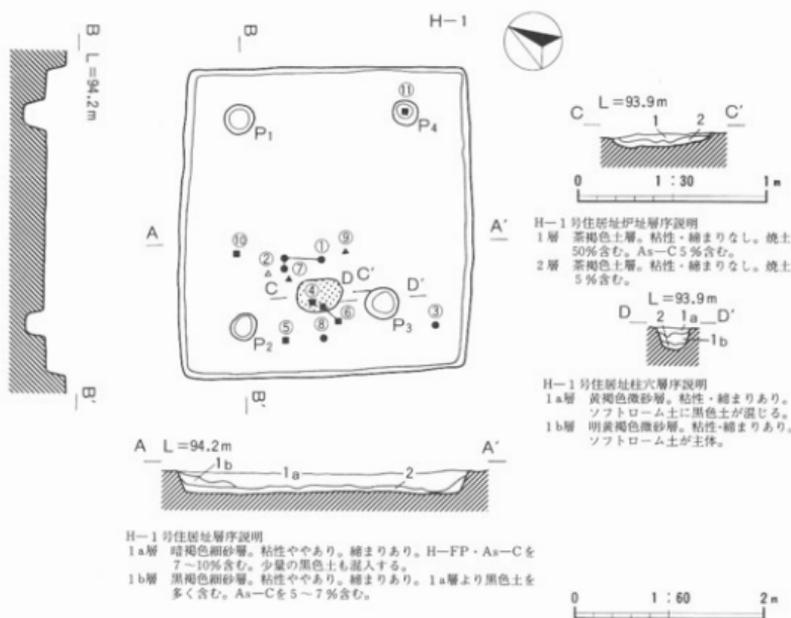
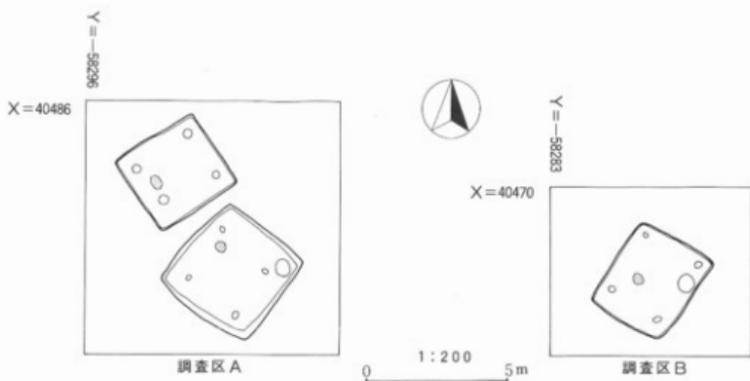


Fig. 3 調査区A・B平面図 H-1号住居址平面図

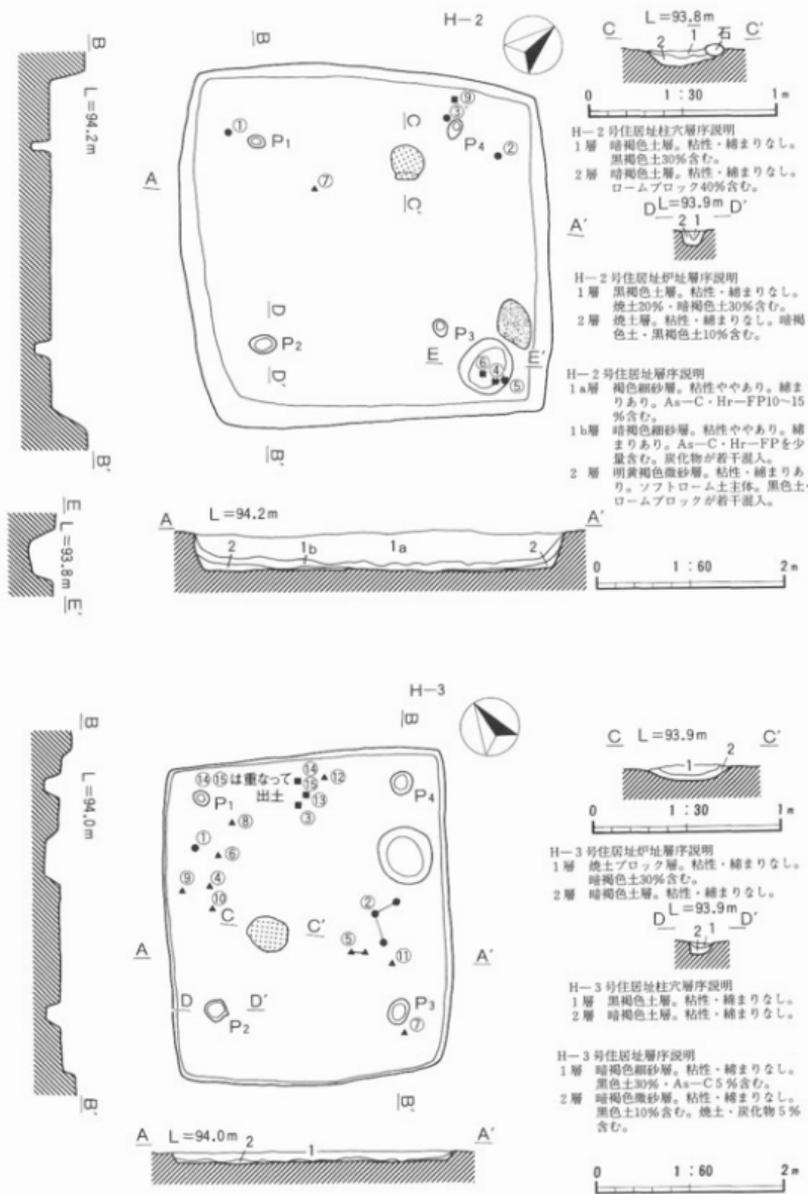
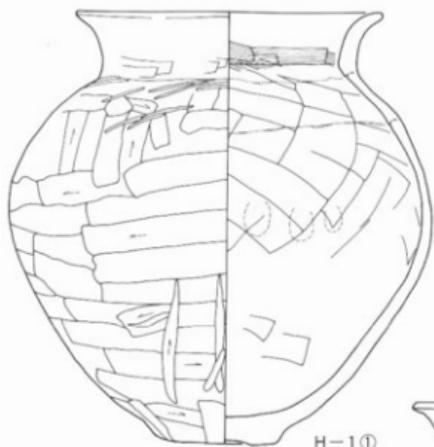


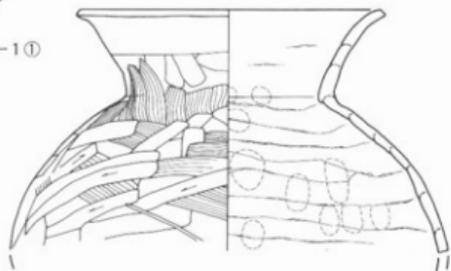
Fig. 4 H-2号・H-3号住居址平面図



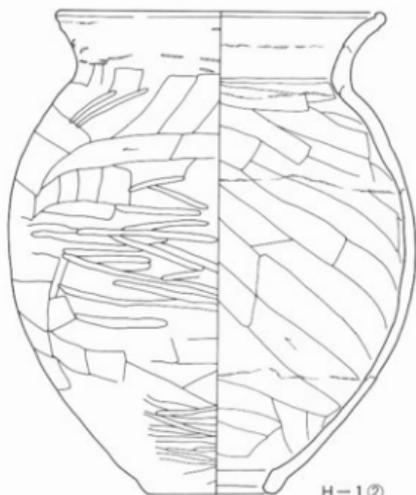
H-1①



H-1④



H-1③



H-1②



H-1⑤



Fig. 5 出土遺物 (H-1①~H-1⑤)

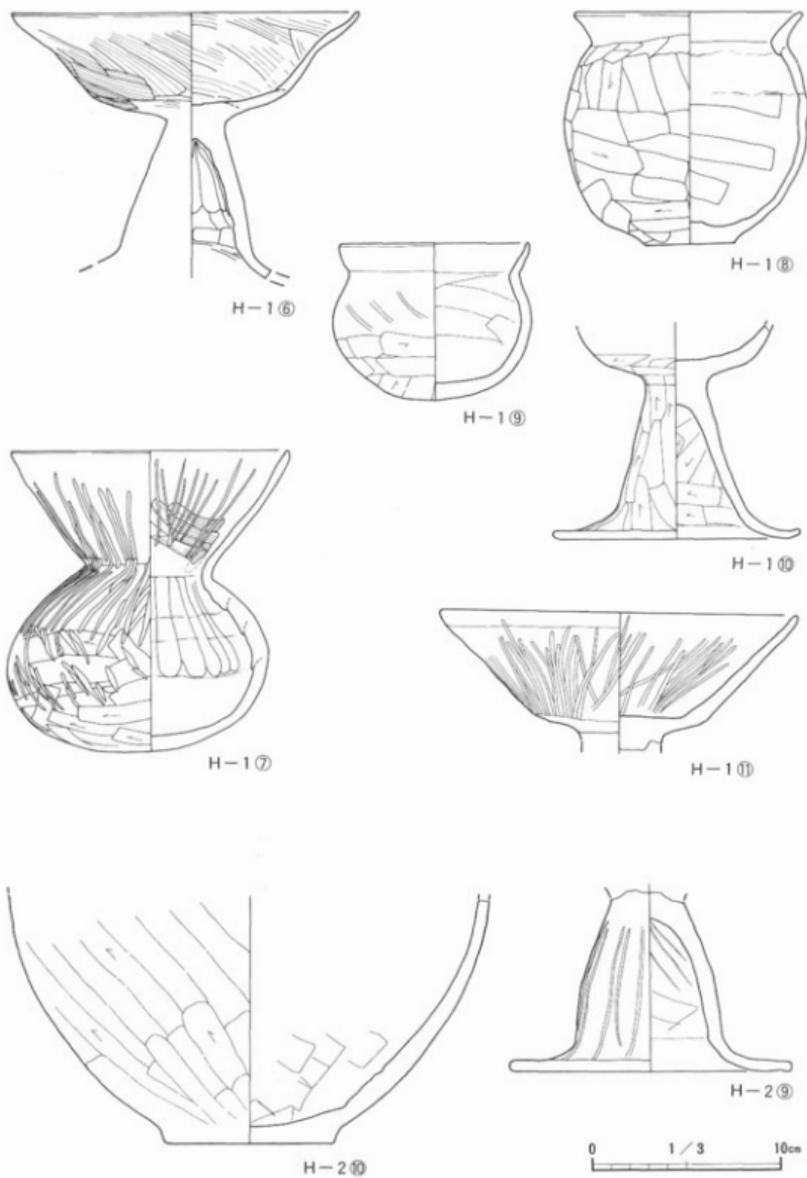
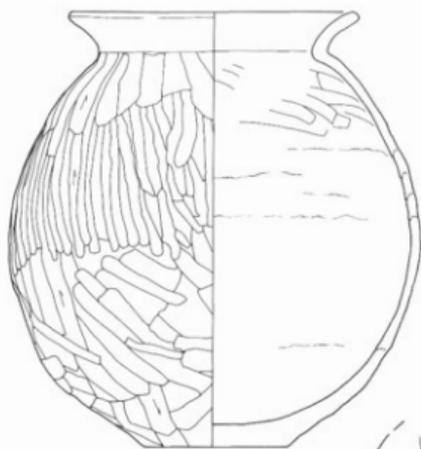
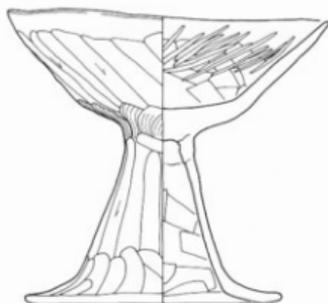


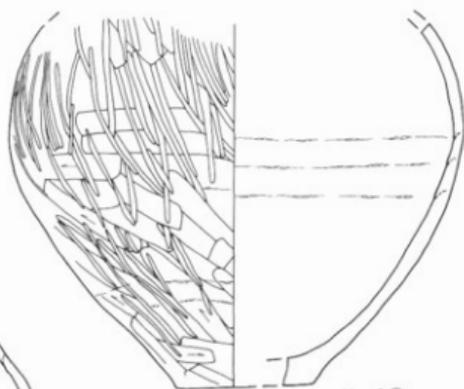
Fig. 6 出土遺物 (H-1⑥~H-1⑪・H-2⑨⑩)



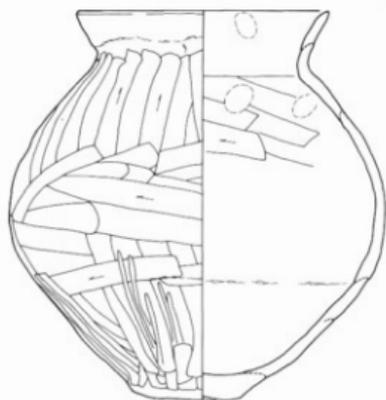
H-2①



H-2④



H-2③



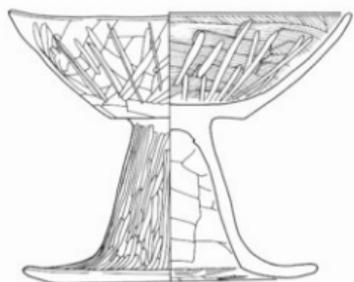
H-2②



H-2⑤



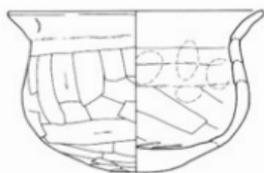
Fig. 7 出土遺物 (H-2①~H-2⑤)



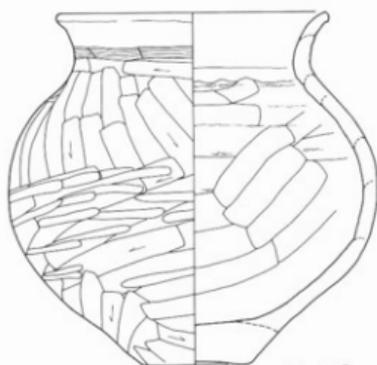
H-2⑥



H-2⑦



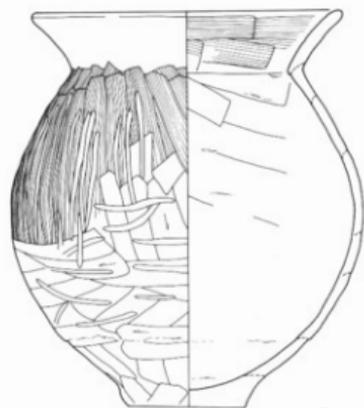
H-2⑧



H-3①



H-3③



H-3②



H-3④



Fig. 8 出土遺物 (H-2⑥~H-2⑧・H-3①~H-3④)

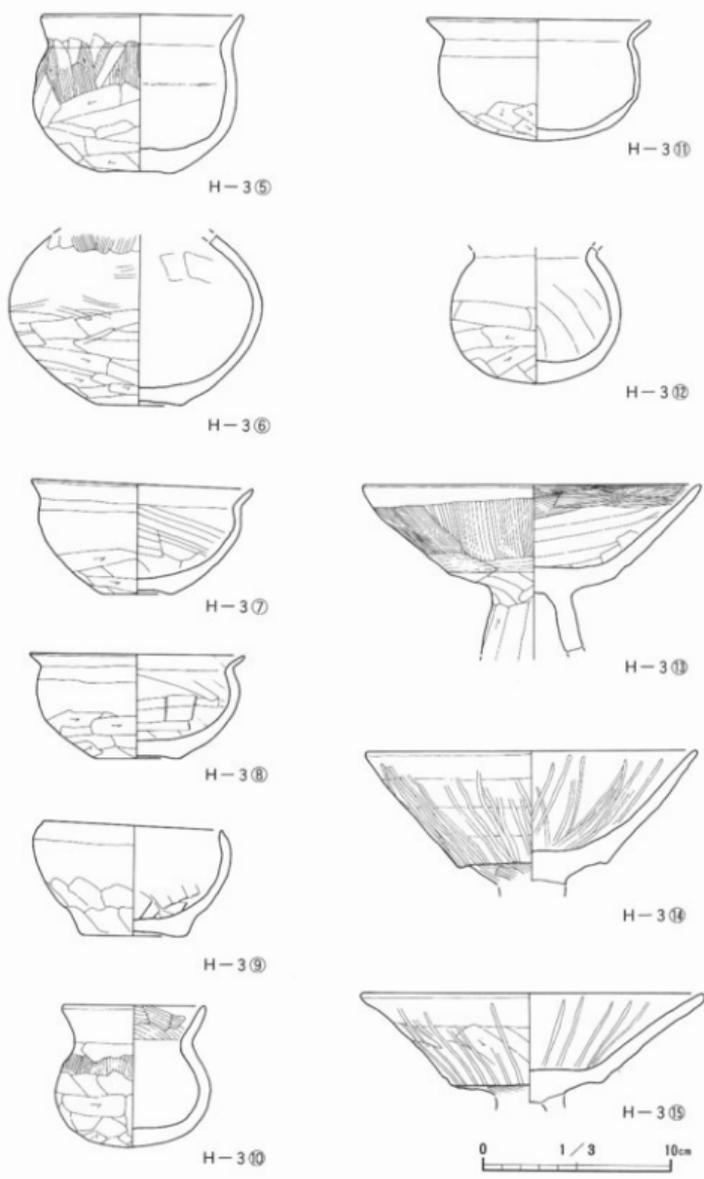
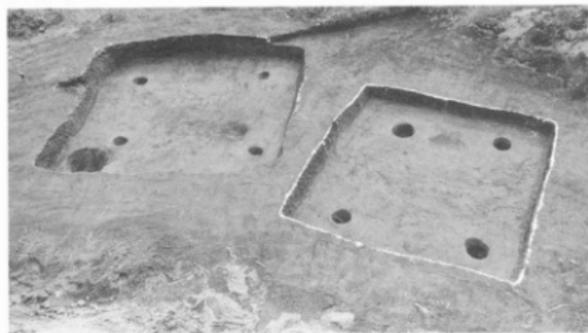


Fig. 9 出土遺物 (H-3 ⑤~H-3 ⑮)



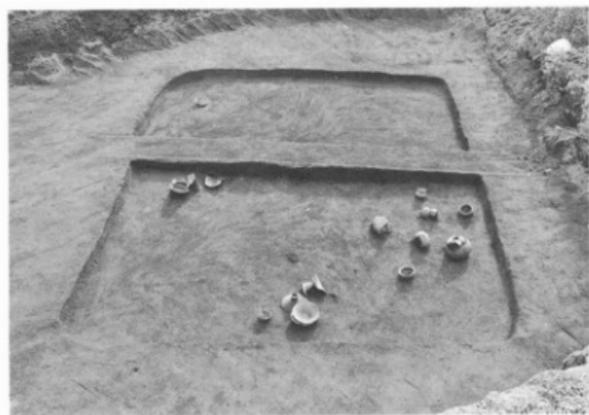
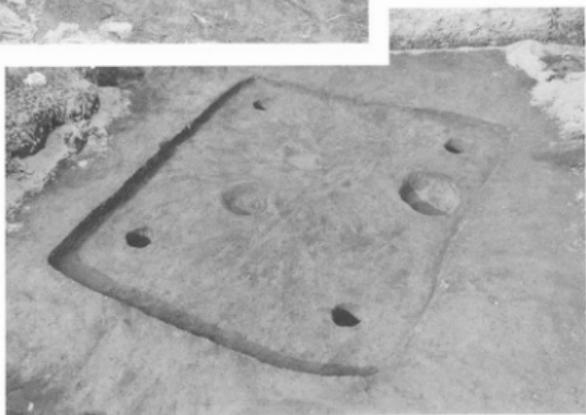
調査区A

左 H-1号住居址

右 H-2号住居址

調査区B

H-3号住居址



H-3号住居址遺物出土状況



遺物H-2④⑤⑥出土状況



H-1号住居址出土遺物



H-2号住居址出土遺物



H-3号住居址出土遺物



H-1①



H-1⑩



H-1②



H-1③



H-1④



H-1⑤



H-1⑥



H-1⑦



H-1⑧



H-1⑨



H-1⑪

H-1号住居址出土遺物



H-2①



H-2②



H-2③



H-2④



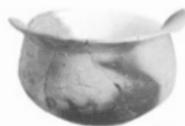
H-2⑤



H-2⑥



H-2⑦



H-2⑧



H-2⑨



H-2⑩

H-2号住居址出土遺物



H-3①



H-3②



H-3③



H-3④



H-3⑤



H-3⑥



H-3⑦



H-3⑧



H-3⑨



H-3⑩



H-3⑪



H-3⑫



H-3⑬



H-3⑭



H-3⑮

H-3号住居址出土遺物

抄 録

フリガナ	ナカナミキイセキ
書名	中並木遺跡
副書名	城南工業団地再拡張に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	園部守央 井野誠一
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371 群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	西暦1994年1月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ナカナミキ 中並木	マエバシシイドイマチ 前橋市飯土井町	10201	5E.30	36° 21' 47"	139° 11' 02"	19931001 19931019	123㎡	工業団地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中並木	集落跡	古墳時代中期	堅穴住居址 3軒	土師器(甕 甌 高坏 埴 埴 坏)	

中並木遺跡

1994年1月25日 印刷

1994年1月27日 発行

編集・発行 前橋埋蔵文化財発掘調査団

前橋市上泉町664-4

TEL 0272-31-9531

印刷 松本印刷工業株式会社

前橋市紅雲町一丁目12-3

